チュンイー・シュー

JAPAN313 BC

Izumi Matsuda

April 18th

プロジェクト ファーストドラフト

アニメ・声優ラジオの歴史と未来

現在、日本のアニメ文化は世界中一番流行っているポップカルチャーと言っても過言ではないだろう。アニメを始め、マンガやゲームなど様々な作品が英語に限らず、中国語やスペイン語にまでも翻訳され、色んな国々の老若男女に楽しまれている。そして、アニメやゲームなどの関連情報をファンに伝うため、ラジオ番組を開設することが多い。そのようなラジオ番組がアニメラジオ、略してアニラジと呼ばれている。

一般的に、アニラジには二つの種類があると考えられる。アニメなどに関する情報番組と声優やアニソン歌手の個人的な番組だ。前者と比べてみると、後者の寿命が非常に短い。ほとんどの場合には、後者は関するアニメが終わる時点で終わることが多い。どちらも、声優がラジオのメインパーソナリティを務める。声優、つまりボイスアクターはリスナーからのメールとお便り、略して「ふつおた」を読みながら、アニメなどに関する情報を紹介する。ふつおたで送れる内容はアニメを見た後の感想だけではなく、声優さんに聞きたい話や聞かせたいことなどを送ることができるだと考えられている。さらに、アニラジの放送作家は番組のため、色々なコーナーや企画を考えておる。そして、放送作家が作ったコーナーの紹介をラジオのウェブサイトにアップロードする。リスナーはウェブサイトの紹介を見て、それぞれのコーナーに投稿し、パーソナリティと共にラジオを盛り上げる。このようなとこができるところもアニラジの魅力であり、大人気の秘密かもしれない。

歴史を振り返ってみると、アニラジの始まりは第一次声優ブーム後の１９７０年代。当時の声優が海外の映画とアニメの吹き替えを主に活躍している。初めて声優がラジオで活躍するのは１９７９年から放送されたアニメトピアだと考えられている。それは初めてアニメなどの情報を的に扱う番組が放送されたものだ。アニメから脱線したトピックと面白い会話が好評となり、7年間ぐらい続いた。アニラジが爆発的に増えたのは１９９０年代。視聴者がに減っているラジオ業界で、アニラジはアニメ好きな若者達を対象にして、多くの声優が起用し、人気を獲得した。代表的なのは、『新世紀エヴァンゲリオン』でレイを担当しためぐみさんのラジオ、「林原めぐみのTokyo Boogie Night」。１９９２年４月から、もう２５年以上続いていたというのような長寿番組だ。２０００年代から、パソコンとインターネットが一般化し始めて、アニラジも、この時代の流れと共に、インターネット化するようになった。２００３年の「文化放送 超！A&G+」がされたことをきっかけに、数々なアニラジのために開設されたアニラジ専用のインターネット放送局が多くなり、地上波ラジオからインターネットで配信されるようになった。２００８年から、「文化放送 超！A&G+」には、各番組の放送や収録中のスダジオの様子を見られる動画付きの配信が開始された。現在、「文化放送 超！A&G+」を始め、「音泉」と「HiBiKi Radio Station」が最も有名なアニラジ放送局だと考えられている。

２０１５年、「文化放送 超！A&G+」や「音泉」、「HiBiKi Radio Station」などがアニラジアワードをし、アニラジを別にする「アニラジアワード」を設立した。第一回には、「最優秀ラジオ大賞」や「大笑いラジオ賞」、「癒しラジオ賞」など全7賞があり、２０１４年に放送されたアニラジの中から、一般投票と実行委員会によって、最優秀なアニラジが選ばれた。第一回「最優秀ラジオ大賞」と「BEST RETURN HOPE RADIO」を獲得したのは『ノーラジオノーライフ、ゲーマー兄妹がラジオをするそうです』という番組だ。元々このラジオに関するアニメ『ノーゲームノーライフ』が終わったら、ラジオ自体もすぐ終わるはずだ。しかし、２０１４年７月８日の第１４回にて終了し、リスナーからのラジオ復活のお願いが多すぎるため、７月２０日に秋葉原で行われた「MF文庫J、夏の学園祭2014」公開録音にて、隔週放送の形で復活することが発表された。復活放送は７月２９日から１２月３０日まで配信された。しかし、これで終わりというわけではない。第一回「最優秀ラジオ大賞」を受賞したことで、５月１２日に特別回が配信された。さらに、２０１６年７月１７日の「MF文庫J 夏の学園祭2016」にて、もう一回の公開録音が行われた。そして、今年の３月２６日の「Anime Japan 2017」にて、『ノーゲームノーライフ』の劇場版を紹介するため、もう一回の公開録音が行われた。これはまさに不死鳥のような復活し続いていたというわけだ。

ここ数年、アニラジ番組のイベントの開催が多くなった。イベントというのは、つまり公開録音のことだ。アニラジの放送は主にスダジオ内の収録ため、直接に交流する機会が少ない。しかし、公開録音なら、画面ではなく直接に目を見ることができるので、ファンの中に非常に人気がある。最近のイベントには参加応募抽選券が必要になった。それなりに人気があるというわけだ。だが、科学技術の進化と共に、アニラジが進化する可能性も十分ある。例えば、家から出なくでも参加できるイベントや、直接に会話ができる「ふつおた」、または動画と音声の代わりにVRで楽しめるラジオ。現在一般化し始めたARとVR技術がいずれアニラジに新たな変化を与えるだろう。アニラジがラジオという形から生れ変わる未来は目の前にあるかもしれない。